平成 28 年度 第 1 回 東遊園地再整備検討委員会 議事要旨

日時:平成 28 年 6 月 20 日(月)15:00～17:00
場所:神戸市役所 1 号館 23 階 1234 会議室

議　事

■東遊園地の現状と課題についての委員コメント

・ 東遊園地に関する年表は、外国人が管理していた時代と、条約改正により神戸市が管理した時代を正しく表すべきである。
・ 東遊園地は、横浜の山手公園と並び日本を代表する西洋風の公園であり、かつては、西洋のスポーツや文化が融合する窓口であった。多文化が混在していた時代もふまえて検討が必要である。
・ 昨今は、神戸の国際性が低下しているように感じるが、東遊園地、外国人墓地、異人館、居留地を大切にしてほしい。
・ 現在の東遊園地には、多くのモニュメントがあり雑多となっているので、コンセプトを整理し、純化すべきである。東遊園地は、①西洋風の公園　②震災　この２つが重要である。

・ 日頃から、人を巻き込み、色々なものを生み出す視点で物事を考えているが、国有地では営利目的の行為は許可されないとの説明があり、困惑している。
・ 東遊園地の芝生化については、単純に「利用者が芝生になれば外に出たくなる」という事ではなく、商業的な施設や色々な機能との抱き合わせが重要である。
・ 東遊園地が、今後、パークマネジメントによるサスティナブルな公園を目指すのであれば、何らかのダイナミックな展開を検討しなければならない。渋谷の宮下公園やニューヨークのブライアントパークなど商業施設と公園をからめた事例も参考としながら、様々な政策手法も含め検討委員会での議論が必要である。
・ 現在の東遊園地は、空間的に雑然としている印象だ。モニュメント等の要素も整理し、もっと明快な空間にすべきである。また、「東遊園地」という楽しそうな名前のイメージも大切にしたい。

・ 大きくは、計画的側面とデザイン的側面の２つの視点が考えられる。

① 計画的側面

・ 地区公園の枠組みを超えて、三宮徒歩圏域と観光を含む視点で考えるべきである。
・ かつて、居留地の東端だった東遊園地は、現在は三宮エリアの中庭であり「へそ」で

ある。「へそ」である東遊園地をどう使うかが、都市再生にとって重要である。

・現在、人の流れは、三宮駅から国際会館までしか来ていない。それを、いかにして海・Kiito・ポートオアシス・フェリー乗り場まで伸ばすかが重要である。コベリンやLRT等合わせて検討が必要である。

・「多目的広場」がうまく機能しなくなってきたため、例えばブライアントパークのような、プログラム型の広場への転換がポイントになる。

② デザイン的側面

・東遊園地は、市役所とセットで考えるべきである。かつて東遊園地だった花時計～２号館～１号館～東遊園地までの全体を、どのようにパーク化できるかを考えなければならない。１号館のロビー、２号館のグランドレベル、東遊園地をどのようなパッケージにするかを検討しなければならない。

・現在、運動場やパフォーマンス広場で社会実験をしているが、まちの構造上は、花と彫刻の遊歩道側に、にぎわい軸をつくる方が良いと思われる。

・デザイン的には、何もつくらずに、いらないものをとるイメージで検討し、パークマネージメントにより進めるべきである。かつての河川敷公園に近いフリーな場のイメージである。

・ルールの見直しや規制緩和などの制度設計が必要である。プログラム型の広場を進めるためには、制度設計こそが重要である。

・ 東遊園地の芝生化について、最も懸念しているのは「芝生にすれば本当に人が来るか？」という事である。みなとのもり公園では、工事の時に、600人の市民が参加して芝生を植えた。また、スケーターなど利用者ひとりひとりの意見を聞いてつくったからこそ、現在、多くの若者に利用されている。みなとのもり公園のなりたちを通じて、利用者が公園に関わりをもつことから、公園に対する愛情が生まれる事を実感している。

・ 「にぎわいとは何か？」また「東遊園地に必要なにぎわいとは何か？」について考えなければならない。

・ 東遊園地は、震災でなくなられた方の慰霊の場であり、12月から1月は静かな場であってほしいと願っている。1・17の集いの竹灯籠には火と水（お湯）が一日中入っているが、芝生の生育条件として大丈夫なのか検討が必要である。ルミナリエや1・17の集いの存続にも関わる事である。

・ 東遊園地のハードの設定、デザインの設定とともに、利活用がどのように神戸の生活の質に影響するかという視点が必要である。

・ 東遊園地再整備はリノベーションであり、公園のパフォーマンスを上げることが目的である。パフォーマンスを上げるとは、稼働率を上げる、人の滞留時間を増やす、利活用の幅が広がるということである。日本を代表する公園として、コンセプトについても本検討委員会で議

論すべきである。

・ 海までの軸、即ち広域的な視点で考えると、市役所～Kiito～突堤～波止場埠頭緑地～メリケンパーク～居留地という回遊性に対して、東遊園地はどうあるべきかを検討すべきである。また、まちとの連携も非常に重要であり、公開空地や駐車場、歩行者空間等を含めてまち全体で、エリアをまきこむ視点で検討すべきである。

・ 新しいユーザー層（アーバンピクニックやファーマーズマーケットを利用する層ではない層）を掘り起こすための努力ができると良い。

・ 企画とプロモーションの観点から３つの視点が考えられる。

① 発信とプロモーション

・昨今の利用者は、フェイスブックやツイッターを見て、「行きたい」と思えば行動する時代である。利用者に、先に情報を提供することは、マーケティング上でも大切である。

・どのように発信するかが重要であり、例えば、この委員会で議論している事や、工事の状況も随時発信すると良い。神戸市民に「東遊園地どうなるの？」と、わくわくしてもらえるように発信するべきである。

② ターゲット

・神戸２０２０ビジョンのテーマは「若者に選ばれるまち」だが、どのような若者に選ばれるまちなのか、一歩踏み込んだ具体的な設定が必要である。そうでなければ、情報の洪水の中で、神戸が「選ばれるまち」とはならない。したがって、東遊園地も、どのようなことに関心のある人に利用される公園なのか、きめ細かに設定することが重要である。

③ 神戸の南北の背骨

・三宮駅周辺地区の再整備基本構想は、歩行者を中心とするプランで、期待感が高まる。他のまちには出来ないような事も、神戸ならできると期待したい。

・三宮の南側の玄関口から、Kiito などのベイエリアへと（人の流れを）引っ張るためには、広域的な視点に基づく一貫したコンセプトが必要である。

・ 神戸は、港町と言いながら、三宮は海が見える場所が少ないのが残念である。

・ 東遊園地ににぎわいを求める上で、観光客によるにぎわいか、近隣の人によるにぎわいか、ターゲットを明確にするべきである。両者をターゲットとすべきという意見もあろうが、中途半端となり、良い結果につながらないのではないかと考える。

・ 空間的には、例えば、フラワーロード側は、観光客でにぎわう空間、居留地側は静かな空間にするなど検討が必要である。

・ 三宮では、最近マンション建設が増えている。特にワンルームマンションが増えていること

から、20 代が増加していると考えられる。ニュースポーツを好む若者は、みなとのもり公園を利用し、憩いを求める若者は東遊園地（噴水周辺）を利用するのではないかと想像される。

・ 観光客に、三宮駅南側から税関辺りまで足を伸ばしてもらうためには、定期的なイベント開催など工夫が必要である。東遊園地をエリア分けして、各々でプログラムを実施するのも効果的と考える。

・ 「神戸が、全国で最初に公園の概念を再定義する。日本の公園を変える。」くらいの意気込みで、東遊園地再整備の検討に取り組みたいと考えている。

・ 神戸にとって東遊園地は「レッドカーペット」のような役割であり、特別な場所である。

■まとめ

① 都市計画・アーバンプランニング

・ 神戸の将来像に基づき、山から海へ楽しく歩ける街を目指し、広域的なスケールから東遊園地をとらえるべきである。

・ 三宮以南のエリア、旧居留地、三宮の東を含めて、歩行者空間の視点が重要である

・ 他の公園、公開空地などとの歩行者ネットワークを含めて検討すべきである。

② スペースデザイン・空間のデザイン

・ 東遊園地再整備においては、道路との連携が重要である。また、東遊園地、市役所の２・３号館、道路を一帯としてとらえれば、さらに面白い東遊園地界隈となるはずである。

③ プレイスメイキング

・ 東遊園地で色々な人が色々なプログラムを行えるように、きめ細かく利用を想定し、しかけをつくることが重要である。場合によっては、コミュニティをつくることも視野に入れる。

④ パークマネジメント、エリアマネジメント

・ パークマネジメントやエリアマネジメントを進めるためには、従来の仕組みでは難しい面もあり調整が必要である。

・ 公園は、公共性に慎重で、公共性に最も向き合っている都市施設と言える。「公共性とは何か？」「従来の営利行為とは何か？」についても整理するとともに、検討すべきである。